

心臓血管造影検査における羞恥心 —患者と看護婦へのアンケートを通して得たこと—

伊原美和子, 坂上ひな子, 亀田すみ子

札幌社会保険総合病院 4階西ナーステーション

近年、虚血性心疾患は増化傾向にある。診断法として、心臓カテーテル検査（以下、CAG）が行なわれる。当院循環器内科では、平成3年より年間平均110件前後のCAGを行っている。看護婦の準備として、鼠径部の剃毛、陰部の前張り等を行う。現在の方法では体を露出する場面が多く、羞恥心が強いと考えた。患者、看護婦の羞恥心に対する差を明確にするため意識調査を行った。結果、看護婦が思うほど患者は羞恥心を感じてはいなかった。病気に対する恐怖、検査に対する恐怖が患者の心理に有ることに気づいた。

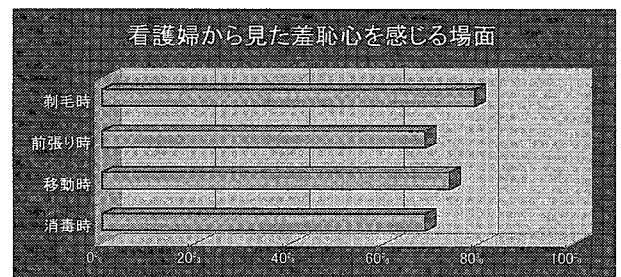
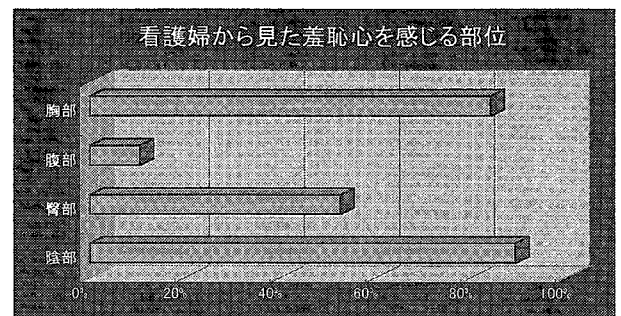
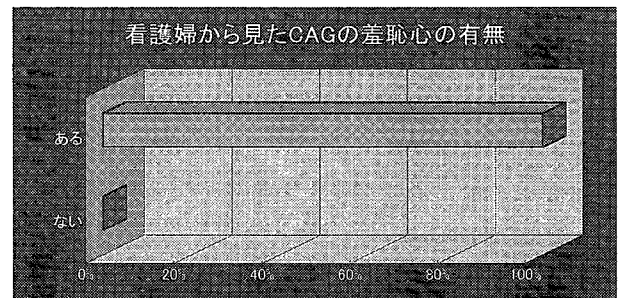
キーワード：羞恥心

はじめに

心疾患の診断法として、CAGが行われる。当病棟では男女各1名の医師、看護婦19名（平均年齢25.7歳）が検査の介助に当たる。現在の方法は体を露出する場面が多い。藤腹¹⁾は羞恥を「個人の私的な部分が他者にさらされた時に生じる恥ずかしい思い」と定義し私達も同意した。患者、看護婦に意識調査を行い今後の看護の手がかりを得たので報告する。

不必要な露出を避ける、声掛けを多くする、短時間で行うなどの答えがあった。

表 1



研究方法

1. 研究期間

平成10年10月22日～11月20日

2. 対象と方法

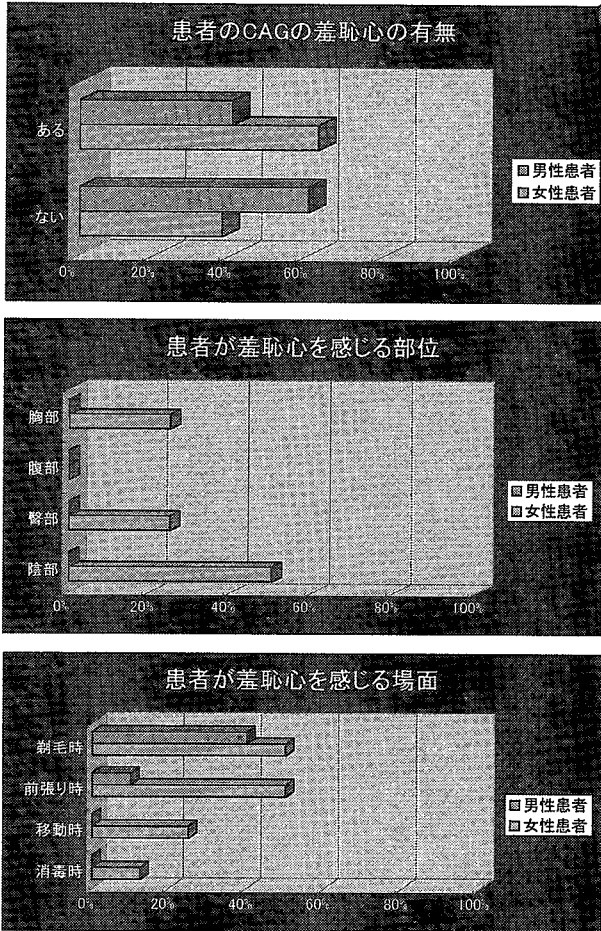
当病棟の看護婦19人、研究期間中CAGを受けた入院患者・再来患者18名（男性患者10人、女性患者8人、平均年齢55.9歳）にアンケート方式で羞恥心の意識調査を行った。

結 果

1. 看護婦

全員が羞恥心はあるだろうと答えている。部位については陰部の89.4%、以下胸部、臀部、腹部。場面については、剃毛時78.9%、検査台への移動、前張り時の順となっている。日頃行っている配慮では、

表 2



今後の意見として、検査用の服の考案、上半身のみ着衣可の答えがあった。

2. 患者

男性はあるが40%、女性は62.5%羞恥心があると答えた。しかし、恐怖のほうが強いとの意見も聞かれた。

部位については、女性患者より陰部50%、胸部、臀部。場面については、男女共剃毛時、40%、前張り時、の順となっている。また、女性患者より止血時男性医師だと抵抗がある、移動時服が落ちるといふ声も聞かれた。

具体的な状況についての質問では、女性患者より「止血時に足を開かなくてはいけないので、男の医師だと抵抗がある」、「移動時に服が落ちる」、といふ声が聞かれた。

考 察

患者の羞恥心が予想より少なかったのは、CAGが与える恐怖と、看護婦が行う露出を最小限、短時間で行う、等の配慮が羞恥心を感じにくくさせていると考えられる。又、看護婦は心疾患をもつ患者が抱く恐怖を想像する事しか出来ない事も羞恥心の差の理由になると考えられる。性の部分に羞恥心を感じた患者は多数おりましたが、医療場面では避けられないことが多々有る。坂口²⁾は、「患者の羞恥は、異性の医療者に対し強くなる。」と述べている。性の羞恥が常にある事を、医療者は意識する必要がある。今後、検査服の考案、恐怖心に対する配慮が必要と思われる。

おわりに

今回の研究で、患者は看護婦が思うほど羞恥心を感じていないことがわかった。しかし、患者の倫理面を考えると羞恥心に対する配慮は必要と思われる。検査服の検討など、医師と協力し羞恥心へのケアを充実させていきたい。又、恐怖に対する看護も今後の課題と思われクリティカルパスを使用しオリエンテーションの充実、恐怖に対する意識調査も継続し研究していきたい。

文 献

- 1) 藤腹明子, 羞恥, JJN スペシャル No25 〈ケアプランのための患者心理のアセスメント〉, p 78~81, 1992)
- 2) 坂口哲司, 羞恥心の研究, 看護技術33(15), p 78~84, 1987
- 3) 厚生省: 厚生白書(平成9年版), 「健康」と「生活の質」の向上を目指して, p52~p55, 財団法人厚生問題研究会, 1997

Awareness of shame in patients undergoing coronary angiography

Miwako IHARA, Hinako SAKAUE, Sumiko KAMEDA

Shizuko KOYAMA, Emiko NAGASAWA, Hiromi MINAMIDE, Kazuko ODA

4th-floor West Nurse Station, Sapporo Social Insurance General Hospital

The number of patients suffering ischemic heart disease have been increasing. Coronary angiography (CAG) is necessary to diagnose. Approximately one hundred ten cases per year have been undergoing CAG in the cardiovascular unit of Sapporo Social Insurance General Hospital. We have to shave pubic hair in the groin of patients and cover it with sheet before CAG. We have been anxious about awareness of their shame during these procedures, since they are subject to being naked. We studied how ashamed patients feel by questionnaire. In result patients did not feel much ashamed than we expected but feel strong fear of the test and disease instead.